

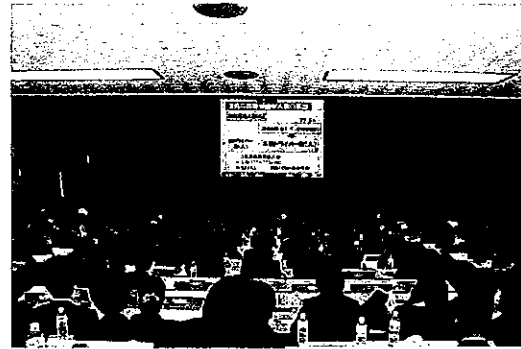
NS物流研究会

物流関連ゼミ学生が人材確保や荷待ち時間対策で発表

女性採用では「勤務期間が長い女性社員がいることをアピール」せよ

NS物流研究会(樋口恵一会長)は11月22日、「第6回物流関連ゼミ学生による研究発表会」を東京海洋大学品川キャンパスで開催した。出場大学は神奈川大学、東京海洋大学、流通経済大学、目白大学、大阪産業大学、流通科学大学、同志社大学と過去最大の7校。ゼミの発表では、物流業界で課題となっている人材確保や荷待ち時間対策について学生の視点から提案がなされた。

●上場陸運会社の社名認知度は：



過去最大の7校が参加

見た」(110人)がトップで、「テレビや新聞の宣伝で見た」(86人)、「昔から知っている」(74人)と続く。なお、「インターンシップに参加した」は回答数がゼロだった。

陸運会社の選

考に進まなかった理由では、「体力に自信がない」「トラックの運転をしたくない」が男女共通で、「就業時間が長い」「給料・休日が少ない」といった男性からの意見のほか、女性からは「グローバル展開をしていなさそう」という声もあった。

学生の視点で印象に残っている会社説明会では、男女とも「お土産がもらえる」といった参加特権のある説明会を挙げる。陸運会社に興味を持ってもらうための方策として、「学内講義」を提案している。

また、女性を採用するには「勤務期間が長い女性社員がいることをアピール」すべきとし、女性先輩社員との交流、勤務地・勤務時間の固定、女性用の社内設備の設置、社内保育システムの導入、キャリアアップ制度の導入、配送範囲の指定を具体策に挙げた。

●クラウド活用の予約センターを提言

このうち「陸運会社が優秀な学生を採用するための考察」(大阪産業大学浜崎ゼミ)では、関西の私立大学経営学専攻(4回生以上)ロジスティクス受講生を対象に独自のアンケートを実施。144人(男性98、女性46)から回答を得た。上場陸運会社の認知度を調べたところ、「日本通運」(126人)、「ヤマトホールディングス」(130人)、「サカイ引越センター」(123人)はほとんどの学生が知っていたが、社名を知っている人が1ヶ台の会社もあった。どのようにつながったかについては「トラックで

「トラック配送における荷待ち問題」(目白大学橋本ゼミ)では、荷待ち時間を減らすための取り組みとして「予約システム」の導入を提案。実際に導入している会社からヒアリングし、トラックの待機時間や倉庫作業員の生産性向上といった効果を確認した。

一方、予約システムが普及しない理由として、情報共有しやすい環境がないことを指摘。他業界(飲食、旅行、ホテル、美容)では予約システムが普及し、学生アンケートでも85%が何らかの予約システムを使っていることが分かった。

学生の予約利用方法はインターネットや電話が多く、予約のメリットでは「待ち時間が減る」(72%)、「予定が立てられる」(60%)が挙げられた。その上で、サプライチェーン全体で情報の共有化が可能になる環境整備の重要性を指摘。

具体的には、クラウド環境を活用した「Logistics Reservation Center(LRC)」を提言。「LRCの導入により物流現場と商流を連結したサプライチェーンの根本問題を解決する」としている。

このほか、「中小トラック企業における共同化の将来性」(流通経済大学小野ゼミ)、「旅客自動車運送業界との連携でトラック業界の人材不足解消を目指せ!」(東京海洋大学黒川ゼミ)、「『買い物難民』問題解決策の物流ビジネス視点からの提案」(流通科学大学森ゼミ)、「食の変化を支える物流」(低溫輸送と航空輸送」(同志社大学石田ゼミ)、「人材難に向けたドライバー確保への提言」(若手労働者への一歩」(神奈川大学齊藤ゼミ)が発表された。